

新たなマーカーで精度向上

脾臓がん、血液で早期発見

脾臓(すいぞう)がんは初期段階で自覚症状がなく、早期発見が難しい。その兆候を血液で見つける新たな技術が2024年2月に診断補助の検査キットとして公的保険の対象となった。医師が「発症リスクが高い」と判断した人が対象で、早期発見・治療につなげる動きが広がっている。

この検査キットは東レが販売する「東レAPO A2-ITQ (アポエリーアイティーキューリー)」。血液から「APO A2」など2種類の物質を計測して、その濃度から脾臓がんの可能性を判断する。

国立がん研究センターによると、日本で1年間に新たに脾臓がんと診断されるのは約4万400人で、男女ほぼ同数。初期には症状が出ていくと、進行すると腹痛や食欲不振、おなかが張る感じのほか、腰や背中の痛みなどが生じる。急に糖尿病が発症・悪化して見つかることもある。

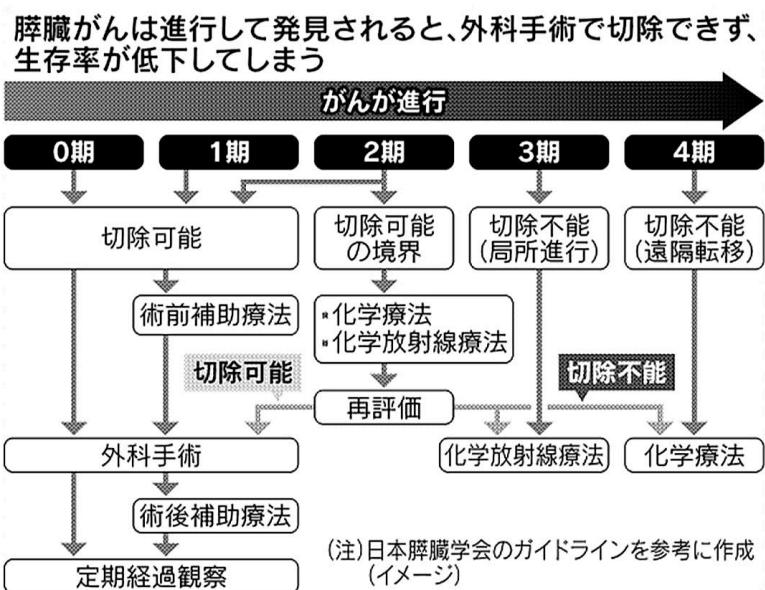
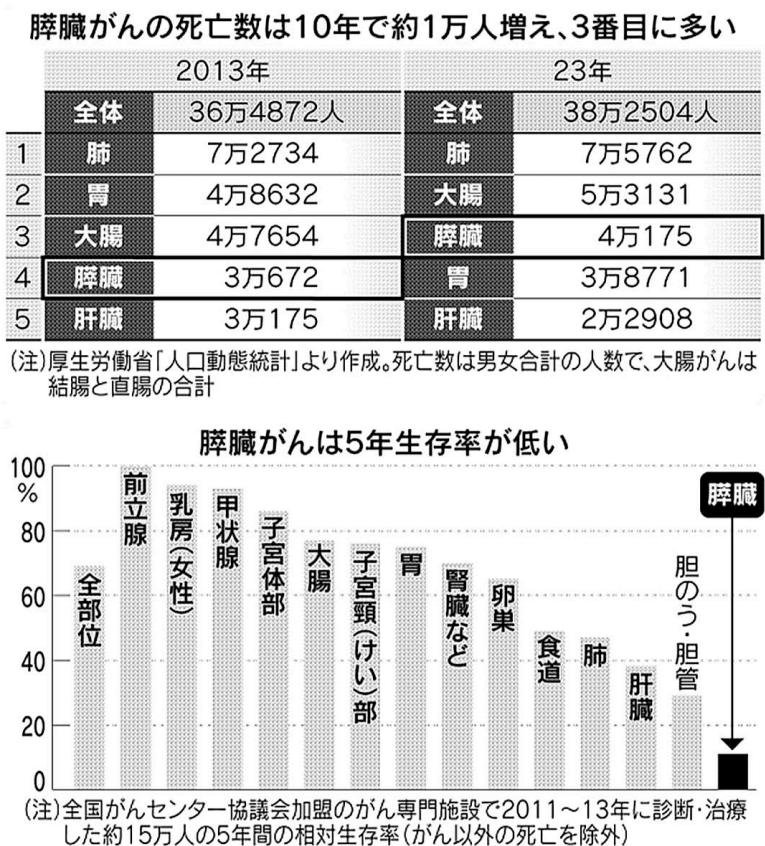
早期のステージ1で発見された場合、5年生存率は5割程度とされる。

半数近くの患者は最も進行したステージ4の状態で見つかり、手術で切除ができることが多い。

脾臓がんは進行して発見されると、外科手術で切除できず、生存率が低下してしまう。



2024年2月から医療現場で使えるようになった脾臓がん診断補助の血液検査キット



自治体検診へ検証進む

脾臓がん検診は市区町村や職場で行う「対策型検診」の対象になつておらず、人間ドックなどの「任意型検診」となる。今回の検査技術は北海道神戸市、鹿児島県で有効性の検証が進められている。鹿児島県民総合保健センターの樋谷薰セントラル所長は「血液検査を受けた人に陽性判定となつた人に精密検査を受けてもらう

と診断された。転移しており、5年生存率は1%以下。2年弱の闊病の末未満で患者がいるリスクが高くなるとされる。脾臓がん患者の1割弱は「家族性脾がん」といって3番目に死亡数が多いがんになっている。

新しい検査キットについて脾臓がん支援組織、

島喜幸理事長は「脾臓がんを救う可能性がある大ききな一步」と喜ぶ。

眞島さんの妹は微熱と

首のしこりから検査を受け、04年9月に脾臓がん

がんになっていて、2年弱の闊病の末に49歳で亡くなつた。脾臓がん患者の1割弱は「家族性脾がん」といって3番目に死亡数が多いがんになっている。

この技術は日本医科大学が適正使用指針を作成して限定している。医師が糖尿病や家族歴など危険因子を評価して早期を

から定期検査を受け、6年後に影が見つかり、脾臓を摘出した。手術後の

病理検査でステージ0の

状態だったと分かった。

「早期発見できれば手術で治療できる。血液検査の

のような技術こそ患者が求めている」と話す。

脾臓がんの可能性を示す血液中の目印(バイオ

マーカー)には「CA19-9」というがん細胞がつくる物質もある。脾臓がん全体を7割程度の感度で判定できるが、ステージ1~2では5割弱に下がる。

眞島さんは妹の診断後

から定期検査を受け、6

年後に影が見つかり、脾

臓を摘出した。手術後の

病理検査でステージ0の

状態だったと分かった。

「早期発見できれば手術

で治療できる。血液検査の

ような技術こそ患者が

求めている」と話す。

脾臓がんの可能性を示す血液中の目印(バイオ

マーカー)には「CA19-9」というがん細胞が

つくる物質もある。脾臓がん全体を7割程度の感度で判定できるが、ステージ1~2では5割弱に下がる。

眞島さんは妹の診断後

から定期検査を受け、6

年後に影が見つかり、脾

臓を摘出した。手術後の

病理検査でステージ0の

状態だったと分かった。

「早期発見できれば手術

で治療できる。血液検査の

ような技術こそ患者が

求めている」と話す。

脾臓がんの可能性を示す血液中の目印(バイオ

マーカー)には「CA19-9」というがん細胞が

つくる物質もある。脾臓がん全体を7割程度の感度で判定できるが、ステージ1~2では5割弱に下がる。

眞島さんは妹の診断後

から定期検査を受け、6

年後に影が見つかり、脾

臓を摘出した。手術後の

病理検査でステージ0の

状態だったと分かった。

「早期発見できれば手術

で治療できる。血液検査の

ような技術こそ患者が

求めている」と話す。

脾臓がんの可能性を示す血液中の目印(バイオ

マーカー)には「CA19-9」というがん細胞が

つくる物質もある。脾臓がん全体を7割程度の感度で判定できるが、ステージ1~2では5割弱に下がる。

眞島さんは妹の診断後

から定期検査を受け、6

年後に影が見つかり、脾

臓を摘出した。手術後の

病理検査でステージ0の

状態だったと分かった。

「早期発見できれば手術

で治療できる。血液検査の

ような技術こそ患者が

求めている」と話す。

脾臓がんの可能性を示す血液中の目印(バイオ

マーカー)には「CA19-9」というがん細胞が

つくる物質もある。脾臓がん全体を7割程度の感度で判定できるが、ステージ1~2では5割弱に下がる。

眞島さんは妹の診断後

から定期検査を受け、6

年後に影が見つかり、脾

臓を摘出した。手術後の

病理検査でステージ0の

状態だったと分かった。

「早期発見できれば手術

で治療できる。血液検査の

ような技術こそ患者が

求めている」と話す。

脾臓がんの可能性を示す血液中の目印(バイオ

マーカー)には「CA19-9」というがん細胞が

つくる物質もある。脾臓がん全体を7割程度の感度で判定できるが、ステージ1~2では5割弱に下がる。

眞島さんは妹の診断後

から定期検査を受け、6

年後に影が見つかり、脾

臓を摘出した。手術後の

病理検査でステージ0の

状態だったと分かった。

「早期発見できれば手術

で治療できる。血液検査の

ような技術こそ患者が

求めている」と話す。

脾臓がんの可能性を示す血液中の目印(バイオ

マーカー)には「CA19-9」というがん細胞が

つくる物質もある。脾臓がん全体を7割程度の感度で判定できるが、ステージ1~2では5割弱に下がる。

眞島さんは妹の診断後

から定期検査を受け、6

年後に影が見つかり、脾

臓を摘出した。手術後の

病理検査でステージ0の

状態だったと分かった。

「早期発見できれば手術

で治療できる。血液検査の

ような技術こそ患者が

求めている」と話す。

脾臓がんの可能性を示す血液中の目印(バイオ

マーカー)には「CA19-9」というがん細胞が

つくる物質もある。脾臓がん全体を7割程度の感度で判定できるが、ステージ1~2では5割弱に下がる。

眞島さんは妹の診断後

から定期検査を受け、6

年後に影が見つかり、脾

臓を摘出した。手術後の

病理検査でステージ0の

状態だったと分かった。

「早期発見できれば手術

で治療できる。血液検査の

ような技術こそ患者が

求めている」と話す。

脾臓がんの可能性を示す血液中の目印(バイオ

マーカー)には「CA19-9」というがん細胞が

つくる物質もある。脾臓がん全体を7割程度の感度で判定できるが、ステージ1~2では5割弱に下がる。

眞島さんは妹の診断後

から定期検査を受け、6

年後に影が見つかり、脾

臓を摘出した。手術後の